



水性と油性の大きな違いは、塗料を液体の状態にして塗れるようにする「溶剤」が水性では水、油性ではうすめ液(シンナー)が溶剤として使われているという事です。溶剤は乾くと蒸発してなくなってしまいますので塗膜が出来た後の水性と油性の大きな違いはありません。また溶剤は塗料の臭いや乾燥時間の違いの要因ともなり、水よりもシンナーの方が臭いが強く、乾燥(蒸発)時間も長くなります。

**塗料と溶剤の種類**

水性塗料 → 水

油性塗料 → ペイントうすめ液

ラッカー塗料 → ラッカーうすめ液

## 「水性」「油性」「ラッカー系」の特長

	溶剤 うすめ液	臭い	乾燥	光沢・つや	特長
水性	水	◎ 少ない	○ 速い	△ 普通	油性塗料との性能の違いは少なくなってきたおり、乾けば水で流れない上に乾燥が速く、臭いも少なく、道具の後始末も水洗いで済むので、作業性は抜群です。
油性	ペイント うすめ液	△ やや強い	△ 遅い	○ 良い	鉄製品のサビ対策には強い威力を発揮します。ただ、臭いには注意が必要で、室内の使用は控えた方が無難です。また水性と比較して乾燥時間も遅くなります。
ラッカー系	ラッカー うすめ液	× 強い	◎ 非常に速い	◎ 非常に良い	乾燥時間が速く光沢が優れているのが特長で、手軽に塗装出来るスプレー塗料によく使用されています。ラッカー溶剤が旧塗膜をおかす場合があるので注意が必要です。